

- 47) 友永雅己 (2012/01/28-29) Factors affecting motion direction judgment in chimpanzees. 国際高等研究所研究プロジェクト「心の起源」2011 年度第 3 回研究会, 国際高等研究所.
- 48) 友永雅己 (2012/02/27-28) 海のこころ、森のこころ. 第 2 回チンパンジー飼育者研修会講演. 岡山.

認知学習分野

<研究概要>

A) ヒトとニホンザルにおける認知機能の加齢変化についての実験的比較研究

正高信男, 吉川左紀子 (京大・こころの未来研究センター), 川合伸幸 (名古屋大学), 久保南海子 (愛知淑徳大学)
認知機能の加齢にともなう変化を人間とニホンザルで比較をおこなった。

B) 発達障害の強み (strength) の実験的検証

正高信男

視覚探索課題を実験パラダイムとして用いた実験を定型発達児 20 名におこない、結果を障害児と比較した。

C) 霊長類のコミュニケーションの進化に関する研究

香田啓貴, 柴崎全弘, 佐藤杏奈, H Bouchet (日本学術振興会海外特別研究員 (欧米短期)), 川合伸幸 (名古屋大学), 早川祥子, 加藤朱美, 國枝匠, 石田恵子, 南雲純治 (霊長研・国際共同先端研究センター), 正高信男

ニホンザル、グエノン、テナガザルなどを対象に、霊長類の視聴覚コミュニケーションがどのように進化してきたのかを、実験室、野生下の両者において、フィールド研究と実験研究の両面から研究を行っている。

D) 霊長類のコミュニケーションの進化に関する国際共同研究

香田啓貴, K Zuberbuhler (University of St Andrews)

異種間コミュニケーションの成立の過程について、長期国際共同研究を開始した。University of St Andrews で活動を行っている。

E) 屋久島における野生ニホンザルの行動・生態学的研究

H Bouchet, 香田啓貴

屋久島の野生ニホンザルを対象として、発情時のコミュニケーションの検討を行った。

F) テングザルの遺伝・行動・社会の研究

村井勲裕, 早川祥子, 香田啓貴

インドネシア・スラバヤ動物園に導入された比較的大規模なテングザル群を対象とし、遺伝学・行動学・社会学的研究を行った。

G) ニホンザルの時間知覚に関する研究

柴崎全弘, 香田啓貴, 正高信男

ニホンザルを被験体として、間隔二分法による時間長弁別の実験を行ない、時間長の判断にみられる特徴や、時間知覚に及ぼす諸要因について検討した。

H) 自己情報処理に関する事象関連電位研究

澤田玲子, 正高信男

自己情報処理の時間特性を調べるために、成人を対象に、自己関連刺激、他者関連刺激を観察中の脳波を計測した。

I) 自閉症児における知識・記憶の汎化の苦手さについての認知実験およびビデオによる行動観察

伊藤祐康, 正高信男

発達障害児を対象に論理演算を理解できるかについての認知実験を行った。

J) 発達障害児への学習支援とその評価研究

伊藤祐康, 小川詩乃, 井田美沙子, 磯村朋子, 田中美都, 田村綾菜 (昭和女子大学), 福島美和 (東京大学), 船曳康子 (京大・医学部), 長岡千賀 (京大・こころの未来研究センター), 森崎礼子 (京大・こころの未来研究センター), 吉川左紀子 (京大・こころの未来研究センター), 正高信男

京都大学こころの未来研究センターにおいて、約 30 名の学習に困難を示す発達障害児を対象に読み書きを中心とした学習支援を行った。

K) e ラーニングを核とする多様な学習困難に対応した家庭学習支援方法の構築

小川詩乃, 福島美和 (東京大学), 久保南海子 (愛知淑徳大学), 正高信男

約 10 名の読み書きに困難を示す学習障害の児童に、ひらがな・カタカナ・漢字の読み書き学習のために開発したパソコン用教材ソフトを提供し、その効果を検討した。

L) 学校現場における発達障害児への IT 教材を核とした学習支援の実践研究

伊藤祐康, 小川詩乃, 清長豊, 井田美沙子, 田中美都, 山田智子, 正高信男

学校現場において日本語のひらがな・カタカナの読み書き学習のために開発したパソコン用教材ソフトを提供し、学校現場での活用についての検証やその効果を検討した。

M) 外国人児童生徒の音韻意識発達

清長豊, 正高信男

岐阜県可児市の小学一年生の外国人児童を対象に音声知覚実験を実施した。その結果、かな文字習得において音韻意識の発達がひらがな読み書きの基礎的条件であることが示唆された。

N) 自閉症児における視覚探索研究

磯村朋子, 伊藤祐康, 正高信男

自閉症児における表情認知や情動処理に関わる認知特性を、コンピュータタッチパネルを用いた視覚探索課題によって検討した。

O) 霊長類における乳児画像への選好性の検討

佐藤杏奈, 香田啓貴, 南雲純治 (霊長研・国際共同先端研究センター), A Lemasson (University of Rennes 1), 正高信男

旧世界ザル2種を対象に、ニホンザル乳児の画像を刺激として用い、乳児画像への選好性の有無を実験心理学的に検討した。

<研究業績>

原著論文

- 1) Hayakawa S, Kawai N, Masataka N (2011) The influence of color on the snake detection in visual search in young children. Scientific Reports 1:80.
- 2) Lemasson A, Glas L, Barbu S, Lacroix A, Guilloux M, Remeuf K, Koda H (2011) Youngsters do not pay attention to conversational rules: is this so for nonhuman primates? Scientific Reports 1, Article number: 22.
- 3) Masataka N (2011) Enhancement of speech-relevant auditory acuity in absolute pitch possessors. Front. Psychology 2:101.
- 4) Masataka N, Shibasaki M (2012) Premenstrual enhancement of snake detection in visual search in healthy women. Scientific Reports 2:307.

総説

- 1) 磯村朋子, 正高信男 (2011) 脳の可塑性と学習および発達障害. 作業療法ジャーナル 45(7):656-660.
- 2) 佐藤杏奈, 正高信男 (2011) 声はいかにして話しことばになったか. Journal of Otolaryngology, Head and Neck Surgery 27(8):1169-1174.

その他の執筆

- 1) 吉川左紀子, 小川詩乃 (2011) 発達障害と読み書き支援. 学術広報誌「こころの未来」第7号 p.38 こころの未来研究センター発行.

学会発表

- 1) Fukushima M, Ogawa S, Tamura A, Ito H, Masataka N (2011) Changes in Reading and Writing Aspects of Japanese Children with Learning Difficulties through Individual Learning Support. 15th European Conference in Developmental Psychology (2011/08/23-27, Norway).
- 2) Tamura A, Ogawa S, Ito H, Yoshikawa S, Masataka N (2011) The response patterns of children with developmental disorders in interpersonal conflict situations. 15th European Conference in Developmental Psychology (2011/08/23-27, Norway).
- 3) 磯村朋子, 伊藤祐康, 小川詩乃, 正高信男 (2011) 自閉症児の情動処理過程における注意駆動様式の分析. 2011年度包括脳ネットワーク夏のワークショップ (2011/08/21, 兵庫).
- 4) 磯村朋子, 伊藤祐康, 小川詩乃, 正高信男 (2011) 自閉症児における視覚探索研究—情動とグローバルキュー・ローカルキュー. 第35回日本神経心理学会総会 (2011/09/15, 栃木).
- 5) 伊藤祐康 (2011) かなの読み書き困難を主訴とする児童への支援課題の紹介. 読み書き困難に関わる認知機能の評価方法とその実践～特徴に応じた支援を考える～自主シンポジウム (話題提供者). 日本 LD 学会第20回大会 (2011/09/18, 東京).
- 6) 清長豊 (2011) 読み書きに関わる認知能力の評価 (1) 音韻情報処理過程. 読み書き困難に関わる認知機能の評価方法とその実践～特徴に応じた支援を考える～自主シンポジウム (話題提供者). 日本 LD 学会第20回大会 (2011/09/18, 東京).
- 7) 清長豊, 正高信男 (2011) 外国人児童生徒の音韻意識発達. 日本 LD 学会第20回大会 (2011/09/19, 東京).

- 8) 小川詩乃 (2011) 読み書きに関わる認知能力の評価 (2) 視覚情報処理過程. 読み書き困難に関わる認知機能の評価方法とその実践 ～特徴に応じた支援を考える～自主シンポジウム (話題提供者). 日本 LD 学会第 20 回大会 (2011/09/18, 東京).
- 9) 小川詩乃, 福島美和, 正高信男 (2011) 発達障害児における読み書き困難特性のばらつき. 日本 LD 学会第 20 回大会 (2011/09/17, 東京).
- 10) 佐藤杏奈, 加藤朱美, 香田啓貴 (2011) ニホンザルにおける乳児顔刺激への視覚的注意. Animal 2011 日本動物行動学会第 30 回大会 (2011/09/09-10, 東京).
- 11) 佐藤杏奈, 加藤朱美, 香田啓貴 (2011) ニホンザルにおける幼児図式への選択的注意. 日本霊長類学会第 27 回学術大会 (2011/07/16-18, 愛知).
- 12) 柴崎全弘, 船橋新太郎, 國枝匠, 香田啓貴, 正高信男 (2011) アカゲザルにおけるセルフコントロール課題の検討. 日本行動分析学会第 29 回大会 (2011/09/18, 東京).
- 13) 柴崎全弘, 香田啓貴, 正高信男 (2011) 音声ブライム刺激がニホンザルにおける乳児顔刺激への視覚的注意. 日本動物心理学会第 71 回大会 (2011/09/09, 東京).
- 14) 井田美沙子 (2012) 社会性支援の実践報告. ラウンドテーブル「発達障害児への発達支援がもたらす効果の多角的検討」 (話題提供者). 第 23 回日本発達心理学会 (2012/03/10, 愛知).
- 15) 小川詩乃, 森崎礼子 (2012) 支援者の働きかけに関する検討. ラウンドテーブル「発達障害児への発達支援がもたらす効果の多角的検討」 (話題提供者). 第 23 回日本発達心理学会 (2012/03/10, 愛知).

講演

- 1) 澤田玲子 (2011/05/21) スーパーサイエンスハイスクール講演. 武庫川女子大学附属中学・高等学校, 西宮市, 大学院で学ぶということー学問を通じてヒトを知る.

高次脳機能分野

<研究概要>

A) 顔表情の変化に伴う扁桃体ニューロン応答

倉岡康治, 中村克樹

社会的情報の処理に関わる脳内機序を解明することを目的に、アカゲザルを対象として、他個体の顔表情を弁別する課題を訓練した。さらに表情間を連続的に変化させる刺激画像を作成し、それらの顔刺激を見ているときにサル扁桃体より単一ニューロン応答を記録した。

B) コモンマーモセットの認知機能計測

中村克樹, 竹本篤史, 木場礼子, 山口智恵子, 三輪美樹, 泉明宏, 堀田英莉, 渡辺智子

コモンマーモセットの認知機能 (知覚・記憶等) を調べるために、その装置開発を含め方法の確立を目指した研究を実施している。小型の汎用認知機能実験装置を開発し、視覚弁別課題・逆転学習課題・遅延見本合せ課題・順序学習課題等を訓練し、コモンマーモセットで遂行可能なことを明らかにした。また、筋力測定のための装置を開発し、コモンマーモセットの前肢の筋力を測定した。

C) 乳幼児の視線計測に基づく動作理解の発達研究

中村克樹, 中村徳子 (昭和女子大学), 佐々木丈夫 (日本公文教育研究会)

健常児と発達障害児の動作理解能力を比較・検討するために、非侵襲的に視線を計測する専用装置を用い視覚刺激に対する注視パターンを調べている。

D) ヒトのリズム制御の神経メカニズム解明

鴻池菜保, 倉岡康治, 宮地重弘, 杉浦元亮 (東北大学), 川島隆太 (東北大学), 中村克樹

リズム記憶の脳内機構を明らかにするため、健常成人を対象としてリズム記憶・再生課題遂行中の脳活動を、機能的 MRI を用いて計測した。リズム情報の記名、再生に関連して下前頭回、下頭頂小葉、補足運動野、小脳からなるネットワークが賦活された。また、下前頭回を除く領域はリズム情報保持の期間にも賦活していることが分かった。これらの領域の賦活パターンは、リズムが視覚的に提示されても聴覚的に提示されても差がなく、感覚モダリティを超えて処理されていると考えられた。

E) ニホンザルにおける性の認知とホルモンの関連性の解明

木場礼子, 中村克樹

性ホルモンが性の認知に与える影響を検討するために、ニホンザルを対象として、他個体の顔写真などの視覚刺激に対する弁別能力や選好性といった認知と、ホルモン動態との関連性を調べる計画である。課題遂行個体の尿の採取をおこない、ホルモン測定をおこなう。

F) 大脳皮質神経回路の生後発達の研究

宮地重弘, 大石高生 (統合脳システム), 高田昌彦 (統合脳システム), 桧垣小百合 (統合脳システム), 宮部貴子